

神領駅周辺の古墳

標高約25～43mの庄内川の自然堤防や段丘に立地しています。北東から南西へ緩やかに傾斜する地形を形成しています。

◎ 神領銅鐸出土地 (神領町1-12)

銅鐸とは、弥生時代に製作・使用された釣鐘状の青銅器で、農耕祭祀に使用されたと考えられます。

安政5(1858)年に2点の銅鐸が入れ子状に出土し、そのうち1点は現在、神領区が所有しています。

※一般公開していません。



1 高御堂古墳 (堀ノ内町5-11-1)

築造時期：4世紀前葉
墳形：前方後方墳
墳長：約63m
出土遺物：壺形埴輪



市内で最も古い古墳の1つで、唯一の前方後方墳です。平成2年以降、8次に亘る発掘調査を行い、墳丘は3段築成で、葺石や赤彩された壺形埴輪片が出土しました。後方で竪穴式石槨が確認されましたが、内部は未調査のため、副葬品は不明です。